

外が静かになるまで  
三野 新

## Aパート

外は砂浜。そこに建てられたホテルのある一室。ベッドとソファがある。  
部屋の中には2人いて、横たわる人(以後ベッドと呼ぶ)は顔が観客から見えない位置で、ベッドに横たわっている。もう一人(以後ソファと呼ぶ)は、こちらを向いて、ソファの上で、背もたれにもたれかかっていた寝をしている様子。

ベッド :いま、わたしはぐっすり眠っています。すやすや眠っています。眠っているのに、こうやって話すのは変ですか？変ですよ。でもこうやって喋ることができます。そして、とてもしあわせなんです。その気持ちを伝えたくて、こうやって眠っているのに喋っています。こんな素敵なホテルの部屋で、素敵なベッドの上で。いま眠ることができて、とてもしあわせです。

ソファ:わたしは全く眠れません。この人が隣ですやすやしあわせそうに眠っているのを見ながら、わたしはまんじりとせせずに、ただ目を閉じて眠りに落ちるのを待っています。外が静かになるまで。きっと外が静かになったら、わたしは眠ることができるのだと思います。

ベッド :早く眠れるといいね。

ソファ:でも、こうやって眠ろう眠ろうって、目を閉じていると、確実に起きているはずなのに、もう実は眠っているのか、眠っていないのかわからなくなることがありませんか？いままさに、そんな状態な気がします。でも、外の音が、、、わたしを確実にいまこの場にいることを、ちゃんと起きているんだぞ、ってことを気づかせてくれます。これこれ、これです。すこしずつ聞こえてきます。

飛行機のジェットエンジンの音が徐々に大きくなって、そして消えていく。「飛行機」がドアを開けて、部屋の中に入ってくる。  
ソファの上でうたた寝をしていたソファ。目を開ける。まだ少し微睡む様子。

## Bパート

飛行機:起きましたか？・・・それでは予定通り、これからこのカメラに向かって、あなたが見てきたことを述べてください。それらは全て記録されています。順番や言い方は自由です。あなたが思うように述べてください。私の合図があるまで続けます。いいですね？

ソファは少し身じろぐ。飛行機は、それを目で見やした後、ドアから出ていく。  
以後飛行機のセリフは、全てこの部屋の「外側」としか言いえないような場所から聞こえてくる。それは決して部屋の「内側」から聞こえるものではないものとする。  
ソファは、飛行機が外に出た後、ややあつて体をすこし起き上がらせる。見た目では寝ているのか、起きているのかわからない様子。

ソファ:わたしたちは・・・わたしは、さっきまで夢を、見ていました。夢を見ていた内容のことは、だんだんと忘れていっています。わたしたちは、わたしが、さっきまでどこにいたのか、ということも、だんだんと忘れてしまっています。わたしは、このホテルにやってくるまで、どこからやってきたのかも、正確にはもう思い出せません。わたしが、今、はっきりしているのは、これから、わたしがどうするのか、ということだけだと思います。それも、いま、わたしがここに座っている限りは、座り続けることになるんですが、最終的にはこのホテルの部屋から出ていくことになるんだろう、とも思っています。でも、それはいまじゃないってこともわかっています。わたしが、まだ覚えていることを語ってしまうことで、わたしも含めた、ここにいる全員が忘れないようにするために、このカメラに話すように言われたので、話しをすることにします。でも、とても眠いので、眠ってしまいたい、という気持ちが強い。どこまで喋ることができるのか、わたしはまだわかりません。今は、若干の不安もあります。・・・そうですね、さっきまでわたしが見てきたことについて、既にはっきりもう思い出せなくなってきているのを感じます。もしかするとそれは夢だったのかもしれない。なので、まずはその夢、のような話をします。わたしはおそらく、その時、飛行機の中にいました。

(飛行機の音がフェードイン)

わたしは今飛行機の中にいます。風を切り裂く音がずっと耳のそばで鳴っているのですが、もう、それがうるさい、とは思わなくなってしまった。アメリカに向かう飛行機の中。(「アメリカに向かう」というセリフでちょうど飛行機の音が一番大きくなる)そこでは・・・

飛行機 : (音にかき消されながら、大きい声で) すみません！ すみません！！ 聞こえづかったです。もう一度、少し前に戻って話してください。

ソファー: はい・・・わたしは今飛行機の中にいます。日本に向かう飛行機の中。わたしは・・・わたしたちは、自分たちの国に住む人たちを守るために、そして戦争を終わらせたい、という気持ちで、日本にある軍需工場に爆弾を落としに行こうとしていることが分かっている。プロペラの音がずっと聞こえていて、かなり高いところにいる。自分たちの下に、雲の切間から陸地が見えていて、田んぼの風景が広がっている。ここは確かにアメリカではないことが意識される。

## Cパート

ソファー: ちょうど、夢の話語ってきましたが、同時に、ちょうど今このホテルにやってきたことも少し思い出してきました。この場所は、田んぼの中にあります。田んぼの周りには、植林された杉の木が規則的に立ち並んでいる。わたしは花粉症であったことを思い出して、とても嫌な気持ちになりました。ちょうどこのホテルの看板が目立つ場所に車を留めて、歩いて向かおうとする。少し歩くと左手の田んぼと田んぼの間に、太陽光発電用のソーラーパネルが設置されている。30mほどの長さで2列あり、太陽光が当たりやすいように、ちょうど南向きに45度の角度になっている。横から見ると、ちょうどのごぎりの刃みたいな感じ。すぐ後ろからやってきたトラクターが、いま、わたしと並行して走っている。わたしの歩くスピードより少し早いくらい。トラクターに乗っている人から、どこにいくの？と聞かれる。この先のホテルまで行こうとしていることを伝えると、歩くと30分以上かかるらしい。そこまで歩く元気がなかったわたしは、再び車に歩いて戻る。ちょうどドアを開けたあたりで小雨が降ってきたんだけど、晴れ間が見える。しばらく運転するとすぐに窓ガラスが曇り始めて、たまに強烈な光がわたしの目を刺してくる。横をチラッと見ると、ソーラーパネルの光が反射して見える。目の前にさっき会ったトラクターがゆっくりとしたスピードで進んでいる。道は一方通行。後ろからわたしもゆっくり車で、トラクターに着いていく。(飛行機の音がフェードイン) 右側の田んぼの先に、ホテルの看板がまた見えて、小さな自由の女神が見える。雲の隙間から晴れ間が指して、ちょうどそのホテル全体がライトアップされているように見えました。車のフロントガラスは、少し曇っていて、優しい、少し拡散した、ボワツとした光になっているみたいで、..

(飛行機の音が一番大きくなる。少し小さくなるまで待つ)

・・・あ、夢の話に戻りますけど、わたしは今波打ち際に立っています。目の前には海がある。とても穏やかな波。かなり砂浜が広くあって、後ろを振り返ってみても、浜辺の先に見える木々や家はとても遠く感じました。浜辺には、人がたくさんいて、みんなプロペラ飛行機を引っ張って砂浜にある滑走路に移動させている。一人の白人の男と目が合い、こちらに近づいてくる。ミス・マタニティがね、って言われて、え？って聞き返す。出発するよ。と言われ、どうやらその飛行機の別名らしい、そのミス・マタニティ。日本語では妊娠を表す飛行機に、既にわたしは乗っていることに気づく。そして、これからアメリカに行く、ということがわかる。これから死ぬかもしれないし、わたしたちは生きて、英雄になれるのかもしれない。一躍有名人の仲間入りになれるのかもしれない。死ぬ実感は、全然なかったです。

飛行機: それは、さっきの夢の話の・・・前の話ですか？ 後の話ですか？

ソファー: えっと、よく分かりません。ただ、両方とも自分たちが死ぬ、という感覚は全くなくて、でも気がつくと、わたしたちはもう既に海の上にいるんです。そこでは、わたしがいた座席からずっとちらちらソーラーパネルの光が反射している。いや、海の反射でしたっけ。そこからは、今は思い出せません。ホテルに着いた時の話をしたいですか？ 外観が真っ白いホテル。自由の女神も真っ白だったけど、それはあまりにも光に当たりすぎていたからそう見えたのか、本当に真っ白だったのか今では思い出せないんですが、ホ・テ・ルって書かれた文字がくすんだ赤色、昨日食べたりんごの赤色と似ていたことを覚えています。

飛行機: そのリンゴはどこで食べたんですか？

ソファー: 飛行機の中で食べました。あ、でも飛行機は夢の中の話なので、違うのかもしれませんが。部屋に入った話に戻りますけど、ドアを開けてすぐベッドに向かってたいて言いました。

## Dパート

ソファー: ...たいて。

ベッド : うん。

ソファー: ...もう帰ってこないと思った？

ベッド : うん

ソファー: 何してるの？

ベッド :寝るところ。

ソファー:ああ。

ベッド :うん。

ソファー:よく寝れるよね、こんなところで。

ベッド :うん。

ソファー:どうやって寝れるの？

ベッド :わかんない。

ソファー:音うるさくない？

ベッド :うるさい。

ソファー:外にいと、あんまり自分が外にいて感覚がないけど、こうやって部屋の中にいると、外の音が少し遠くに聞こえて、今まで自分は外にいたんだな、って感じがする。結局この部屋にいと安心するのもかもね。やっぱり。

ベッド :この部屋には窓がないから、わたしが感じることができる外のイメージは、隣から聞こえる音とか、ほらこういう飛行機の音とか。想像することが好き。

ソファー:わたしはうるさいと思うな。安心したいから。でも仕方がない。仕方がないから、ここにいる。

## Eパート

飛行機のジェット音でだんだんと会話がかき消されていく。ジェット音と同時に、外から飛行機の声も聞こえる。さっきまでの飛行機の声とは違う「場所」から聞こえてくるようだ。ささやき声を無理やり増幅させたような音。何かを読むようにして、機械的に聞こえる声。

一方、ソファーはジェット音が小さくなった後、その「大きなささやき声」を気にすることなしに喋り続ける。

=====

飛行機:

報告します。わたしは今飛行機の中にいます。アメリカに向かう飛行機の中。

報告します。わたしは今飛行機の中にいます。日本に向かう飛行機の中。

わたしは今飛行機の中にいます。風を切り裂く音がずっと耳のそばで鳴っているのですが、もう、それがうるさい、とは思わなくなってしまった。

わたしは非常食のためのリンゴを持っている。

わたしは・・・

わたしはミス・マタニティ、と呼ばれた。

わたしは・・・死を・・・孕んでいるようだ。

わたしは・・・ここはわたしがこれまでもこれからも暮らす場所、だった。

わたしは大きな出来事を再び引き起こした。

わたしはここで起きて、また眠る。

わたしは同じように、ここで生まれて、また、死ぬ。

=====

ソファー:うーん、でもどうしよ・・・。やっぱりまだここにいよっかな。

ベッド :うん。そうしなよ。

ソファー:全然静かにならないし。

ベッド :まだ大丈夫でしょ。

ソファー:やっぱそう思う？ そう言ってくれてよかったわ。

ベッド :わたしもここにいていい？ 聞いてていい？

ソファー: いいよ。

ベッド : わたしも話してもいいの？

ソファー: わかんないけど、別にいいんじゃない。

ベッド : わたしは、また眠りから覚めることがあるかもしれませんが。でも、こうやっていま眠りながらでも、ずっと起きている彼女の話も聞けるし、眠ったままでも良いかな、とあっていて、わたしも話が一緒にできると良いな、と思うようになりました。だから私は眠りながら、ここにいます。

ソファー: なになに、どうした。いきなりインタビュー感出しちゃって。

ベッド : わたしは多分みんなに見えないから、説明というか、自己紹介的な。

ソファー: そうなんだ。

ベッド : わたしは、毎日、毎日、訓練している、ということが分かってきました。どんなに外がうるさくても、眠ることができ訓練。ただ、自分にとってこれが普通のことなんだってことはわかっています。だって、これからもきつと銃を撃ったり、飛行機をスクランブル発進させることはずっと続け、ミサイルだって近くの海に落ちることだってある。

ソファー: そうなんだ。でもやっぱりわたしは、そんなところにずっといたくないな。

ベッド : いや、そんなところばかりでしょ。

## Fパート

飛行機 : だんだんと話がこんがらがってきました。少し休憩しませんか？今はいつの、何の話をしているんですか？

ベッド : わたしはこの部屋の話をしています。わたしは、この部屋で起こった話しかしていません。

ソファー: あ、でもわたしはこの部屋にやってきたことの話もしたし、この部屋から出る話も最後にしたいと思います。実況中継みたいになっちゃうかもしれないですね。このカメラは持っていいですか？

飛行機 : このカメラは持っていいはいけません。話をもとに戻しましょう。

ソファー: こんなに話していたら、だんだんと目が覚めてくると思っていたんですけど、ずっと眠いままです。わたしはいつから寝てないんでしょうか。ここにあるもの全て、この場所にあるものではなかったかのように感じます。

ベッド : わたしは何も動かしてないし、この場所にあるものは全て、東京にもニューヨークにもなかったよ。この部屋にしかない。

ソファー: ここから出ていけないといけない、という気持ちはすごいあるんですよ。

ベッド : わたしにとって、ようやく、ここでな、ここでだったらな、生きていけるんだわ、って気持ちはある。

ソファー: でも結局、出ていけないといけない。

ベッド : なんで？

ソファー: ここの家賃、っていうかホテル代？もう払えない。

ベッド : あっそ。

ソファー: 何？

ベッド : え？

ソファー: あっそ、って何？

ベッド : どうしようもないってこと。

ソファー: だからって、あっそ、って何？

ベッド :ごめん。

ソファー:ごめんじゃなくて、払ってよ。

ベッド :わたしが？

ソファー:そう、家賃、ってかホテル代か。

ベッド :ごめん。

ソファー:不安すぎる。

ベッド :うん。

ソファー:ここで暮らせるかずっと不安。

(飛行機のジェット音がフェードイン)

ベッド :また聞こえるし。

ソファー:隣の部屋、、、

テレビから聞こえる音。録音されている音。部屋の隣から聞こえてくるような音。

=====

飛行機:

アメリカ・メジャーリーグの外野手サンディエゴ・パドレス所属のファン・ソトは、ロッキーズの本拠地クアーズフィールドで開催されたオールスター試合の前日に行われる2021年のホームランダービーの一回戦で大谷翔平と対戦した。大谷は、それまでシーズン前半だけで、30本以上のホームランを量産していたため、大方の事前予想とは異なり、ソトが大谷を退け、一回戦を勝ち上がったことに観客は驚きの表情を見せた。そんなソトのフルネーム、ファン・ソトは日本語で、「不安・外(ファン・ソト)」という言葉に聞こえる。「不安・外」が大谷翔平に勝ってしまった時、やっぱり、と一方でわたしは思う。同時に、残念、とも思う。期待していたのに、とも。翌日のオールスター本戦で大谷はこちらも大方の予想を裏切り、打撃不振に陥り、ノーヒットで試合を終える。オールスター前まで絶好調だった大谷は、ホームランダービーへの負担が相当大きかったようで、疲労が溜まってしまったのか、オールスター後の試合は不調に陥る。翌年のオールスター戦、大谷翔平は、ホームランダービーへの出場を辞退し、自身オールスター初のヒットを放つ。

=====

ソファー:アメリカ、また行きたいな。

ベッド :そうだね、また行けるよ。

ソファー:いまは眠らないと。

ベッド :いま、眠っているわたしは、生きている、ということを確認するのではなく、死につつある、と思うことにしています。生きている、という過去のことではなく、死ぬ未来のことばかりを考えています。あがなえきれぬ力の前に、私たちの生活は、ただ目の前にあることをこなすばかりです。私たちの生活の切実さを盾にして、外(ソト)は常に力を拵げようとしているんです。ここで、この部屋で生きることができるようになるには、死ぬように生きることしかない、と最近思うようになりました。そうすれば、死ぬことと生きることが、おんなじ大きさと考えることができるし、どう生きるか、みたいなことを考え続けることがなくなっていい気分です。

ソファー:わたしは、ずっと悪い気分です。外もうるさいし、部屋の隣に住んでいる人もうるさい。眠たくなったと思ったら、すぐに、、、(飛行機のジェット音がフェードイン)また、ほら、全然眠れないんです。

=====

飛行機:

この部屋に来るには、二階分の階段を登っていく必要があって、いつもは閉まっている中二階の部屋がさっき開いていることに気づく。中を覗くと、わたしたちの部屋の下の部屋がとても大きい吹き抜けの空間になっていたことがわかった。人はまだ誰もいないが、机の上にたくさんのケータリングの食べ物が置いてあって、部屋の正面には、“資金集めパーティ(Fundraising party)”と書いてあった。部屋に戻ると、徐々に人の声が聞こえてくるようになった。かなりの人数が集まっているようで、わたしが部屋を出てトイレに行くふりをしてチラッと下の部屋をまた覗くと、その部屋に集まる人たちはウクライナ国旗のバッチをつけていた。ここは、一階がウクライナ料理の有名店で、周りの地区にウクライナ系列の店がたくさんあったことに気づく。私たちがいる部屋のすぐ下で、ウクライナ国歌を歌う人たち。

=====

ソファー:わたしはかつて天国に住んでいた。天国の名前はアメリカ。わたしはいつからその天国の名を冠したこのホテルにいるのだろうか。もうこれ以上いても仕方がない。ここは地獄だという人もいるが、わたしはそうは思わない。

ベッド :わたしはここからもう出られないことがわかっている。ここにいるのがいやだったら出ていけばいい、と言う、自称強い人たち。わたしは弱い人でいい。

ソファー:わたしは弱い人なのか？

ベッド :いまは眠ってしまえばいいのです。天国のふりをしたこのホテルで眠れるのは、自分も天国にいると思えることと見かけの上ではおなじでしょ？

ソファー:そう思ったら、外も静かになるのかな？

ベッド :この飛行機の音。聞こえるたびに、飛行機が向かう先のことを想像します。飛行機は常に敵を想定しています。わたしたちとは違う敵。わたしたちを守ってくれるためのもの。

ソファー:わたしたちは弱い人なのか？

ベッド :彼らも強くなるためにトレーニングをしています。流行のポップソングが流れる体育館。その中にあるたくさんのジムの機械たちを使っています。

ソファー:その機械は、わたしの家の近くにあるエニータイムフィットネスにある機械と全く同じでした。

ベッド :ジムから帰った後の、あの爽やかな気持ち？

ソファー:ただ、ひたすら備えるというか、健康のため？ なんていう漠然としたイメージで、なんの目的もなくトレーニングをするのはとても苦手です。

飛行機の音が、外側から段々と内側にやってくるような音。ドアがゆっくり開いたまま。

=====

飛行機:

いま、戦争が起こっています。現実の戦争。でもこの場所にも同じように、ずっと昔から続く戦争があります。私たちは、戦争という言葉はあまり使いません。自分たちの国と、自分たちと仲が良い国を守るため、家族を守るため、守る対象は抽象的なものであってはいけません。具体的な誰かを守るための準備。わたしの家族、わたしの兄弟、わたしの父と母、わたしの子どもたち。そのためにわたしは毎日、毎日、この射撃訓練場で銃を撃ちます。銃を撃つ相手のことは具体的に想像したくありません。だから的にするのは、棚から取り出した複製可能な人形の紙です。それをゲームみたいなモニターを操作して、紙を取り付けて、そこに向かって、毎日、毎日、銃を打ちます。これを20年繰り返してきたんです。わたしが守る人を、具体的に想像します、より具体的に、、、そして抽象的な相手を想定して、わたしは今日も銃を撃ちます。

=====

ソファー:いま、わたしは誰に語りかけているのか、ということに疑問を抱いてきました。このカメラで撮影された映像は、誰に届けられるのでしょうか。ホテルに住んでいる人、がまず見ることは間違いないんだけど、きっと、外が静かになってしまったら、わたしは眠ってしまって、きっとこんなふう起きて、これを見ている人に向けて語る、ということはもうできないんだと思います。わたしは、もう何度もこうやって、カメラに向かって話しているけど、あなたのことを具体的に想像できないでいます。

ベッド :わたしのことは具体的に想像できる？

ソファー:これを見ている人は、わたしの話を聞いて、一体なんの話をしているのか、わかっていますか？これはあなたの話なんです。あなた自身の話だって気づいていますか？ あなたがいま立っている、この場所についての話です。この部屋に住んでいる人たちの話です。ここ、というのはどこのことだと思いますか？いま、というのはいつのことだと思いますか？

ベッド :わたしは、あなたではなかった、ってこと？

ソファー:そうだよ。眠っている人とお話しすることなんてできないのは、みんな知ってる。

ベッド :そっか。わたし、眠っているんだもんね。こんなに話をしてたのも、わたしがあなたに、外が静かにならなくても、眠ることができるしあわせを語りたいうことからなんだもんね。でも、あなたは、きっとこの部屋で眠り続けることができる。それは、本当にスゴイことなんだって、なんの比喩でもなく、思うんです。それを伝えられるといいなって。

飛行機の声が聞こえる。ドアが開いているので、外側からなのか、内側からなのか判然とはわからない。中途半端な位相からの声。

飛行機 :今日はここまでにしましょうか。この部屋はそろそろ消灯の時間になりました。そろそろ記録するのも終わりです。今日は眠れそうですか？

ソファー:あなたがいる限りは、まだ眠れそうにありません。

飛行機 :そうですか、残念です。

ベッド :あなたがいる限り、わたしは安心して、ぐっすり眠れそうです。

飛行機 :良かったです。…では、今日は終わりにしましょう。

ソファー:あの！この記録を、この映像を見ている人のことを知ってますか？知っていたら、教えてください。誰なんですか？

飛行機 :それは、…あなたが愛する人ですよ。

ソファー:具体的に誰なんですか？

飛行機 :それを知ってどうするんですか？

ソファー:眠ることができるかもしれないです。

飛行機 :安心するんですね。

ベッド :わたしは、もう寝るね。

ソファー:寝るの？

ベッド :うん寝る。

ソファー:こんなに不安って言ってるのに？

ベッド :うん。ごめん。外の音が聞こえるうちに。

ソファー:不安じゃないの？

ベッド :もう眠たくて仕方がない。

ソファー:起きててよ。

ベッド : また明日ね。

飛行機 : はい、また明日。

ソファー : まだ質問の途中なんですけど。

飛行機 : はい、今日はこれからスクランブル発進の予定があります。すみません。

ソファー : あの…

ベッド : おやすみなさい。

ややあって、ソファーは立ち上がる。

ソファーはベッドの近くにいき、ベッドの顔を覗き込もうとベッドのよこにうづくまろうとする、その瞬間、消灯時間がやってきて、電気が消える。

徐々に大きくなる飛行機の音が「内側」から「外側」に向かっていく音。同時に、ドアの外の光が薄暗闇を少し照らす

が、ドアはゆっくりと閉まっていく。ソファーが立ち上がるのがシルエットで見える。

その瞬間、ドアが閉まり切り、暗転。飛行機の音が聞こえなくなるとともに、誰のものかわからない声が聞こえる。

今日もまた、仕方がない、と思うことにしました。

(了)